

おびらっ子クラブ 「北海道立埋蔵文化財センターの考古学出前講座」

おびらにはむかしの人たちが残した遺跡が19か所もあります。それらから発掘された土器や石器からむかしの人の生活が見えてきます。この講座では、おびらで発掘された土器や石器を見るだけでなく、むかしの人になったつもりで、古代人がアクセサリーとした「まがだま」づくりを体験します。

日 時：8月29日(土) 午前8:45～11:30まで
 場 所：文化交流センター、小平町埋蔵文化財資料館オピラウシ
 講 師：北海道立埋蔵文化財センター職員
 内 容：オピラウシの見学と展示解説
 「まがだま」づくり体験
 申込み：8月25日(火)まで
 参加料：300円
 定 員：20名
 * * * * *
 担 当 文化交流センター(長澤)



「まがだま(勾玉)」づくりの風景

ふるさと教室 小平町の化石から学ぶ

「海底に湧くメタンで生きる生き物たち」

深い海の底には、海底からわき出すメタンを栄養分とする生き物がいます。そうした生き物のこんせきが、おびらにあります。アンモナイトやクビナガリュウと違うおびらの化石の魅力をお聞きします。

日 時：8月30日(日) 午前8:30～12:00まで
 場 所：文化交流センター、達布地区
 講 師：ロバート・ジェンキンス(東京大学海洋研究所)
 内 容：「海底に湧くメタンで生きる生き物たち」
 文化交流センターでスライド等を使ったレクチャー後、
 達布地区の発掘現場で化石を観察します。
 申込期限：8月3日(月)～8月17日(月)まで
 参加料：500円(傷害保険料として)
 定 員：先着15名まで
 * * * * *
 担 当 文化交流センター(長澤)



↑白亜紀の巨大二枚貝
(ニッポノスラシア)



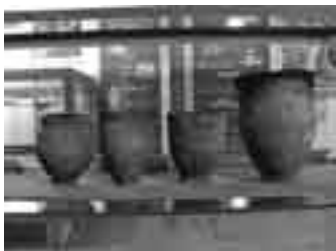
←潜水調査船「しんかい6500」が撮影したメタン湧水に生きるシロウリガイ

小平郷土資料通信 No.47

川尻砂丘遺跡～小平町内、続縄文(ぞくじょうもん)時代の遺跡～

現在、護岸工事が進んでいる小平薬川の左岸(河口に向かって左側)の砂丘は、川尻砂丘遺跡といい、続縄文時代の遺跡です。川尻砂丘遺跡は人の足の骨が出土したことから、墳墓(お墓)と見られています。

続縄文時代とは、聞き慣れないかもしれませんが、本州の弥生時代・古墳時代に相当する紀元前300年から800年頃まで、北海道と東北北部で発達した土器文化です。弥生時代の始まりは、稲作の開始がきっかけとされていますが、寒冷な北海道では稲作が始まらず、縄文時代の伝統を引き継いだ縄目模様の土器が使われ続けます。そのため、「縄文に続く縄文文化」という意味で「続縄文」と呼ばれるのです。



後北式土器(川尻砂丘遺跡)
 模様は縄を編んだ網カゴを
 まねたと考えられている

川尻砂丘遺跡は、海岸に位置し海岸浸食にさらされ、遺物の多くは時化(しけ)によって地表面に現れたものです。続縄文土器の中でも恵山式(えさんしき)と呼ばれる形式の甕(かめ・右上)や後北式(こうほくしき)という形式の深鉢(ふかばち・左)が出土しています。

恵山式土器は、縄文晩期の東北北部の土器を基礎に道南で発展した土器形式で、川尻砂丘遺跡の恵山式土器は最北端とされ、道南地方との人や物の交流を示すものと見られています。



恵山式土器(川尻砂丘遺跡)
 弥生土器の影響で首の長い甕や
 壺形の土器が特徴

8月の古文書解読教室
 25日(火)に実施します